

生物多様性のための持続可能な生産と消費
～IPBES評価報告書から見たサプライチェーン～

ipbes

IPBESアジア・オセアニア地域 アセスメントの概要

東京国際フォーラム 2018年11月6日

橋本 禅

東京大学農学生命科学研究科・准教授
アジア・オセアニア地域アセスメント第5章代表執筆者



www.ipbes.net

UN
environment



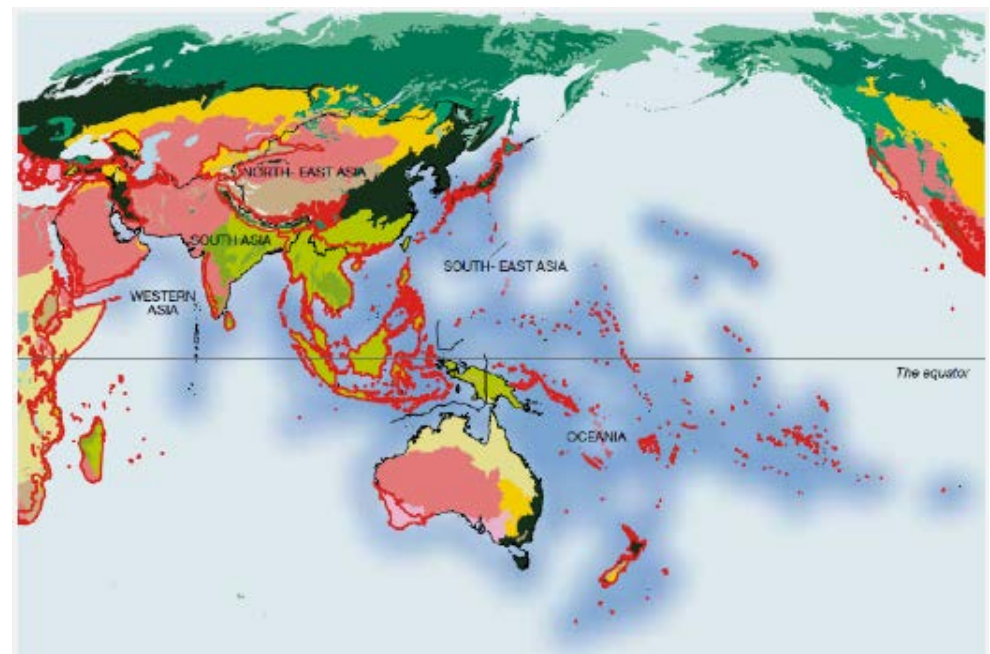
Food and Agriculture
Organization of the
United Nations



United Nations
Development Programme

アジア・オセアニア地域アセスメントのプロセスの概要

- 27カ国から120人を超える専門家が、3年以上にわたり参加
- 3,200以上の学術論文、政府報告書等にもとづき執筆
- 政府関係者を含む90人以上の外部評価者からの3,450以上のコメントも考慮
- 2018年3月にコロンビア・メデジンで開かれた第6回総会で採択



アジア・オセアニア地域と
世界の生物多様性ホットスポットの分布



1

■ 生物多様性、生態系サービス、 およびその変化要因の傾向

自然はアジア・オセアニア地域の人々に様々な恩恵をもたらしたが、さまざまな代償を必要とした（1）

- アジア・オセアニア地域は急速な経済成長と社会変化をとげている
 - 45億人の人口
 - 急速な経済成長（1990－2010年の平均成長率7.6%）
 - 最も急速な都市化傾向（年2－3%）
 - 農業は雇用を生み出したが、土地利用の大きな変化を引き起こした
- 一部地域では貧困率が高く、供給サービス（食料、燃料、等）の需要が高まっている
 - 400万人以上の貧困層（世界の貧困層の52%の稼ぎは2ドル/日未満）
 - 約2億人の人々が森林から得られる、食料、燃料、非木材林産物（キノコ、山菜、等）、薬草、その他の生活必需品等に直接依存している



自然はアジア・オセアニア地域の人々に様々な恩恵をもたらしたが、さまざまな代償を必要とした（2）

■ 生物多様性・生態系サービスの対照的な傾向

- 主要な生態系の全てが脅かされ、生息地の断片化/劣化が進みつつある
- 主要な象徴的な野生生物が急激に減少
- 作物遺伝資源の急速な減少
- 侵略的外来種が種・個体数ともに増加
- 南アジアおよび北東アジアで森林被覆が増加したが、生物多様性への影響は不明
- 保護区は陸上、海上の両方で増加した。しかし、ほとんどの主要な生物多様性重要地域は依然として保護されていない



自然はアジア・オセアニア地域の人々に様々な恩恵をもたらしたが、さまざまな代償を必要とした (3)

- 主要な生態系は、さまざまな要因の組み合わせにより危機にさらされている

- **気候変動**: 海面、気温の上昇、氷河の融解
- **土地利用変化**: 森林の農地、都市的利用への転換
- **過剰漁獲**: 漁獲にしめる捕獲漁業の割合は70%から40%に低下
- **侵略的外来種**: 貿易、国境を越えた人、モノの移動により、東南アジアで335億ドルの経済損失
- **廃棄物と汚染**: 海洋、淡水、人の健康への脅威になっている





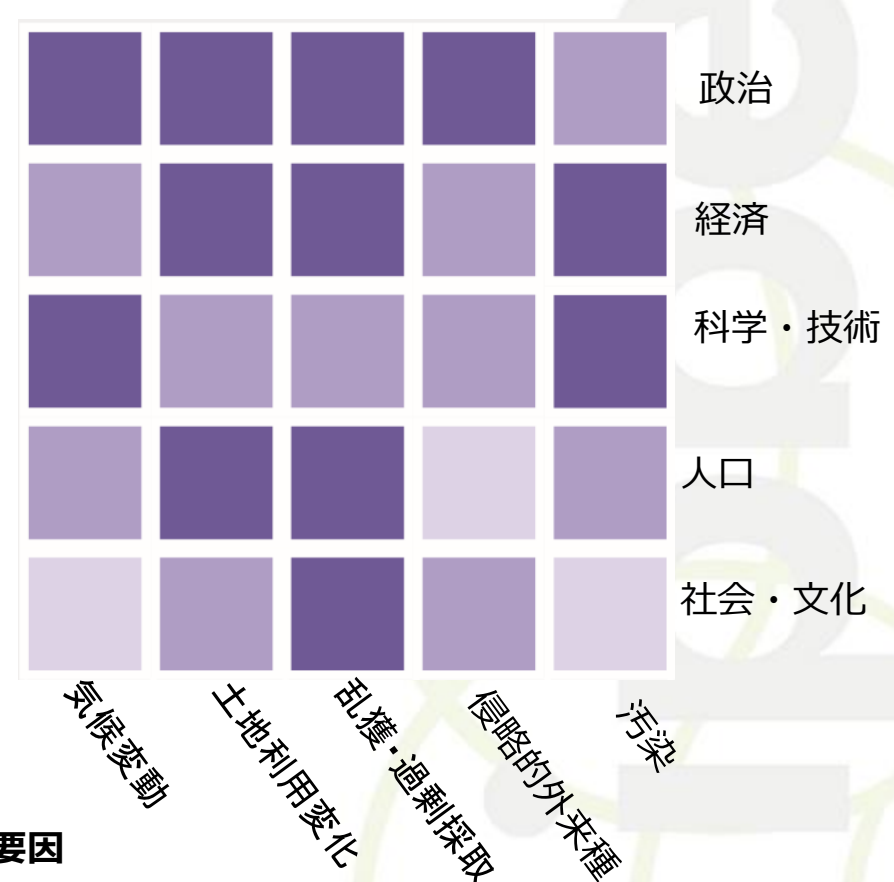
2.

2050年までの展望と その含意

2050年までの展望とSDGs、愛知目標への含意(1)

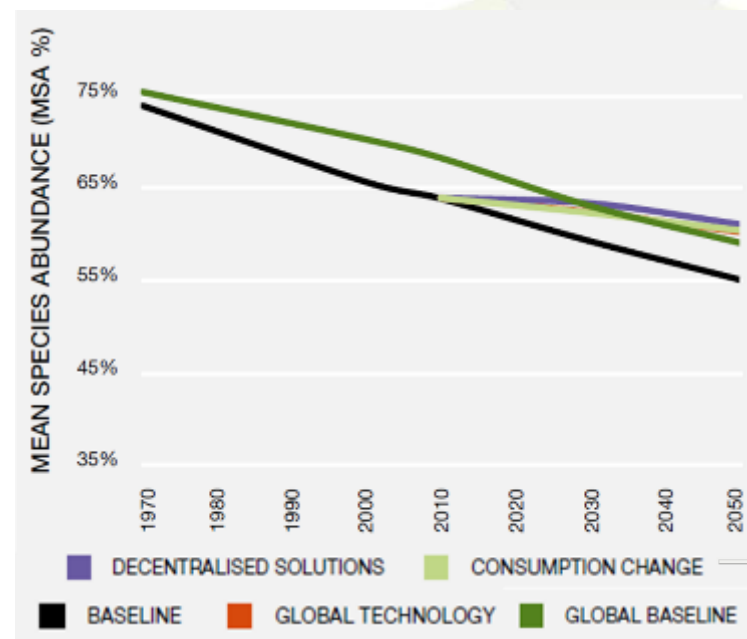
- 様々な変化要因が気候変動と相互作用することで生物多様性の損失深刻化する：
 - 生物多様性の損失の加速
 - 生態系サービスへのリスクの増大
- 直接要因を引き起こす間接要因の存在がますます顕著に
- 間接要因、直接要因の複雑な相互関係を理解することで、生物多様性に対する悪影響を軽減する解決策を見つけることができる

直接要因に対する間接要因の影響



2050年までの展望とSDGs、愛知目標への含意(2)

- 保護区の拡大は愛知目標とSDGsの実現に貢献しているが、生物多様性の損失が継続
- もし2050年までこのままの状態 (BaU) がつづく場合:
 - 生息地と種の45 %の損失が予想
 - 最大でサンゴ礁の90%が深刻な劣化の可能性
 - 東南アジアのスンダランド (チャオプラヤ川下流域の平野) では、今後数十年の間に、哺乳動物の24%鳥類の29%の絶滅が危惧
 - 魚種資源の急激な減少



シナリオ下での
アジア・オセアニア地域の生物多様性



3

■ 主要な政策オプションと 知識のギャップ

主要な政策オプション(1)

- 生物多様性保全における、**地域コミュニティ**の有意義な参加を確実にする
- **主要な部門**（水、エネルギー、農林水産業、等）に**生物多様性保全**を統合する
 - 愛知目標の戦略目標A（生物多様性の主流化）、SDGsの達成に寄与
 - 多様な部門、ステークホルダーの参加の強化
 - 政策の一貫性と相乗効果の確保
 - 生態系サービス等が社会経済の発展に果たしている貢献を説明することが、主要な部門への生物多様性保全の統合を支援



主要な政策オプション(2)

- 民間セクターとのパートナーシップを強化し、生物多様性保全のための資金動員を強化する
 - 民間セクター、個人、非政府組織とのパートナーシップの強化は、ますます必要となっている生物多様性保全のための資金の確保を支援
- 陸域と海域の両方での地域連携の強化
 - 地域レベルでの国境を越えた、重要なランドスケープ、シースケープの管理が拡大し、良い結果を生み出しつつある

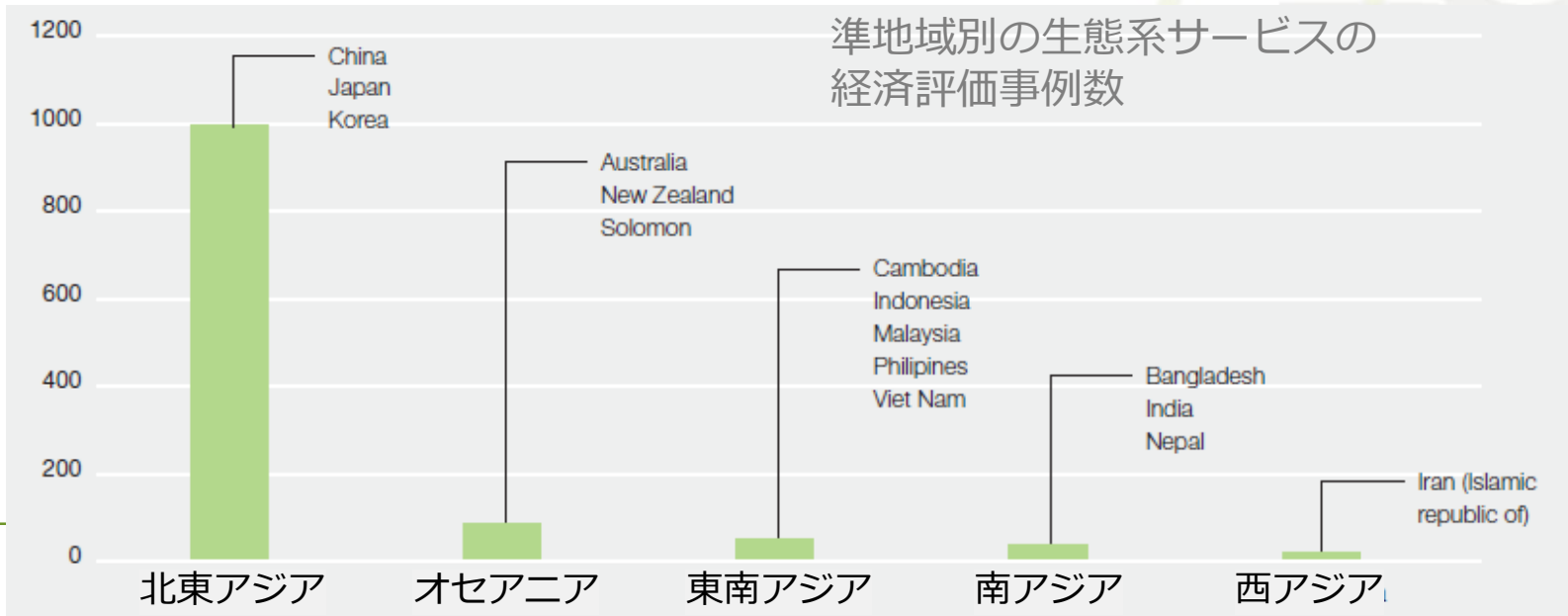


国境を越えた保全上重要な地域



知識ギャップ

- 多様なステークホルダーの連携によるガバナンスや様々なセクターでの生物多様性に配慮した意思決定のに関する経験の集約
- さまざまな政策が生物多様性におよぼす影響をより詳細に視覚化するためのシナリオ分析や計画手法
- 生態系への負荷を軽減させつつ食料、水、エネルギーの安全保障を向上させる科学技術
- 多様な価値観、価値（本質的、道具的、関係性）の評価





4.

追加資料

より詳細な情報は:

- IPBES事務局メディアリリース資料
『生物多様性の損失と生態系サービスの深刻な劣化についてのサイエンティストからの警告』 <https://goo.gl/uoJrqU>
- 政策決定者向け要約 (SPM)
 - <https://www.ipbes.net/outcomes>
 - 約600ページにわたるレポート本体 (英語版) も無償公開

